

第6回網走開発建設部総合評価審査委員会 審議概要

開催日及び場所	平成21年2月2日（月） 網走開発建設部 第1会議室	
委員	大島俊之（北見工業大学教授）、高橋 清（北見工業大学准教授）、 辻 修（帯広畜産大学准教授） （五十音順）	
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成20年度総合評価落札方式の実施（予定）工事について 2 総合評価落札方式の実施状況について 3 平成20年度総合評価落札方式実施予定工事の事前審査について 4 平成19年度総合評価落札方式実施工事の事後審査について 	
委員からの意見・質問、それに対する回答等		
	意見・質問	回 答
	<p>【平成20年度総合評価落札方式の実施（予定）工事について】</p> <p>技術審査から開札まではどの程度の期間を要しているのか。</p> <p>業者によっては、複数の発注者の入札に同時期に参加していることもあるかと思うが、技術者の配置の関係等の理由から入札を辞退する例もあるのではないか。</p> <p>その場合は入札順位証明書に記載されるのか。</p> <p>落札決定後に辞退ということはあるのか。</p> <p>【総合評価落札方式の実施状況について】</p> <p>地球環境対策に関する評価項目の中で、自然共生社会の形成として工事現場周辺の清掃活動が記載されているが、工事現場周辺でないと評価しないということか。</p>	
	<p>昨年後半から事後審査方式を取り入れているため、標準型を除き技術審査は開札後に行っている。このため、事後審査方式では開札から落札まで2週間程度必要となっている。</p> <p>そのような例もある。</p> <p>その場合は記載されない。</p> <p>あり得るが、そのような場合は指名停止という措置が執られることとなる。</p> <p>各工事ごとに評価することから、工事現場周辺以外は評価の対象とはしていない。しかし、履行の確認が可能な提案に対してはできる限り加点していきたいと考えている。</p>	

総合評価の簡易型Ⅰ～Ⅳの違いは何か。

簡易型Ⅰは、予定価格4億5千万円以上、Ⅱは、2億5千万円以上4億5千万円未満、Ⅲは、1億円以上2億5千万円未満、Ⅳは、1億円未満の工事が対象となっており、加算点については、Ⅰ及びⅡが31点、Ⅲが21点、Ⅳが11点が基本となっている。

地球環境対策に関する評価項目の追加については、国土交通省全体としての取り組みか、それとも北海道開発局としての取り組みか。

北海道開発局としての取り組みである。

【平成20年度総合評価落札方式実施予定工事の事前審査について】

1 湧別川改修工事の内 湧別4号樋門地先河岸保護外工事(簡易型)

評価項目の地域精通度とは地元に貢献している者を評価する趣旨か。

その通りである。

2 旭川紋別自動車道 遠軽町 白滝舗装工(標準型)

技術提案については、確実に履行可能かどうか施工後でなければ分からないと思うが、どのように判断しているのか。

技術提案した項目が遵守できなかった場合は、工事施工後に採点する工事成績評定において減点することとなる。

【平成19年度総合評価落札方式実施工事の事後審査について】

能取漁港防波堤(防氷)建設工事

主要工種(基礎工・鋼杭付属工)の記載が無いために失格になった者がいるが、こういった場合はペナルティが生じるのか。

ペナルティは生じない。

当該工事については、予定価格からすると簡易型Ⅱに該当し、加算点は20点になるのではないかと思うが、資料によると加算点は30点になっている。理由を伺いたい。

当該工事については、予定価格からすると簡易型Ⅱになるところであるが、工事内容の難易度が高いことから簡易型Ⅰを適用したものである。

【事後審査方式についての説明】

加算点はどの時点で確定するのか。

契約締結資格の確認の際である。

業者が技術資料を提出する際には公示用設計書は公示されているのか。

技術資料の提出後に競争参加資格を確認し、資格の有無を各社に通知した後、公示用設計書を公示することとなる。

技術提案書を提出する時点では公示用設計書は公示されていないということであるが、環境に対する配慮等は現場等詳細を把握していなければ提案は難しいと思う。その意味では、地域精通度等が高くなければ提案するのは難しいものであると考えてよいか。

その通りである。